

各位

会 社 名 株式会社丸千代山岡家
 代 表 者 名 代表取締役社長 山岡 正
 (J A S D A Q ・ コード 3 3 9 9)
 問 合 せ 先 取締役管理本部長 成田 弘之
 T E L 029-896-5800

平成 26 年 1 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異及び平成 26 年 1 月期業績予想の修正、並びに特別損失発生に関するお知らせ

平成 25 年 3 月 8 日付「平成 25 年 1 月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」にて発表いたしました、平成 26 年 1 月期第 2 四半期累計期間（平成 25 年 2 月 1 日～平成 25 年 7 月 31 日）の業績予想との差異が発生いたしました。また、平成 26 年 1 月期（平成 25 年 2 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日）の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 1 月期業績予想との差異

第 2 四半期累計期間（平成 25 年 2 月 1 日～平成 25 年 7 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	第 2 四半期 純利益	1 株当たり 第 2 四半期 利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,323	4	23	11	14.64
今回予想（B）	4,235	△10	7	△165	△204.44
増減額（B）－（A）	△88	△14	△16	△176	△219.08
増減率（％）	△2.1	－	△69.6	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 25 年 1 月期 第 2 四半期）	4,329	△57	△38	△81	△100.55

2. 差異発生の理由

売上高につきましては、ラーメン業態については以前より行っております Q S C（商品の品質、サービス、清潔さ）向上の施策が浸透してきたため、お客様の来店数が回復傾向にあります。しかしながら、FC の大阪王将業態では他社との競合が激しさを増しており、大幅な売上減少となっております。このような状況下、当社は予定していた新規出店（1 店舗）を行わず、更に山岡家 4 店舗、FC 店舗 1 店舗の閉店を行いました。このため第 2 四半期売上高は 4,235 百万円（当初予想比 88 百万円の減少）となる見込みであります。

原価につきましては、店舗でのロス管理などを行っておりますものの、円安を主因とした上昇が続いております。しかし販管費において、ワークスケジュール管理による人件費のコントロールや消耗品費・衛生費などの効率的使用を継続して行っているため、コスト全体で見ますと当初計画内に収まっておりますが、予想売上高の減少に伴う売上総利益の減少の影響を吸収しきれず、営業損失は 10 百万円（当初予想は 4 百万円の営業利益）、経常利益は 7 百万円（当初予想比 16 百万円の減少）となる見込みであります。

また、特別損失において、平成 25 年 8 月 19 日付「イトアンド株式会社とのエリアフランチャイズ契約解約のお知らせ」にて発表した通り大阪王将業態の撤退を決議したことや山岡家の閉店を行ったことなどから、店舗閉鎖損失・減損損失など 252 百万円が発生し、四半期純損失は 165 百万円（当初予想は 11 百万円の四半期純利益）となる見込みであります。

3. 平成 26 年 1 月期業績予想の修正

通期（平成 25 年 2 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	9,024	211	250	50	61.63
今回予想（B）	8,695	200	230	△44	△54.42
増減額（B）－（A）	△329	△11	△20	△94	△116.05
増減率（%）	△3.6	△5.2	△8.0	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 25 年 1 月期）	8,909	132	176	3	3.93

4. 修正の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は、ラーメン業態については概ね予定どおりに推移するものと考えており、8 月にはラーメン業態の 1 店舗の新規出店を行いました。しかし、大阪王将業態の解約に伴う売上減少などから、8,695 百万円（当初予想比 329 百万円の減少）と見込んでおります。

利益につきましては、上昇傾向にある原価の抑制、人件費・消耗品費・衛生費等のコントロールを行い水道光熱費（主に電気料金）上昇分のカバーを行います。また、大阪王将業態撤退によるコスト減少もありますので、全体で見ますと利益確保に繋がると判断しております。売上高減少に伴う売上総利益の減少は見られますが、同時にある程度のコスト削減も可能とみており、営業利益は 200 百万円（当初予想比 11 百万円の減少）、経常利益は 230 百万円（当初予想比 20 百万円の減少）と下期についてはほぼ当初予想と同程度の利益が確保出来るものと見込んでおります。

また、特別損失において、閉店や一部 FC 業態撤退に伴う店舗閉鎖損失・減損損失など 253 百万円を見込み、当期純損失は 44 百万円（当初予想は 50 百万円の当期純利益）と見込んでおります。

5. 特別損失の発生

当第 2 四半期累計期間におきまして、ラーメン山岡家の 4 店舗の閉店及び 6 月の大阪王将店舗の閉店、更に既に開示しておりますとおりイートアンド株式会社とのエリアフランチャイズ契約を解約したことによる店舗設備の譲渡などにより、減損損失 190 百万円、店舗閉鎖損失 61 百万円など 252 百万円を計上しております。

※なお、上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上